

農業経営基盤強化促進法第18条第1項の規定に基づき、公表します。

貝塚市長

市町村名 (市町村コード)	貝塚市 (272086)
地域名 (地域内農業集落)	名越 (名越)
協議の結果を取りまとめた年月日	令和6年12月10日 (第1回)

注1：「地域名」欄には、協議の場が設けられた区域を記載し、農林業センサスの農業集落名を記載し

1 地域における農業の将来の在り方

(1) 地域農業の現状及び課題

・アンケート結果について 畑作・稲作ともに盛んな地域である。 19%の農業者が80歳以上の高齢者である。 現状耕作していない農地が13%、保全管理のみが13%、10年後「売却したい・委託したい・貸し出したい」農地が40%となり、農地の保全・管理が課題である。 担い手の確保・育成が課題である。 ・農地、農道について 農道は広く、すれ違いも可能であり、主要な農地は接道している。 農地と住宅が混在しており、農地の雑草や発生する昆虫についての苦情がある。借り手がおらず、年数回の草刈りのみとなっている農地も多い。 ・水利関係について 「鳥の池」の水も豊富で、パイプラインも通っており、水に困ることはない。 ・その他について 農業収入が低いこともあり、後継者・担い手不足が課題。農業者の高齢化により草刈もできず耕作放棄地の増加に繋がっている。 山林に近い地区では鳥獣害（特に「アライグマ」）がある。

(2) 地域における農業の将来の在り方

・地域作物について 水稻を中心に、裏で「たまねぎ」や「じゃがいも」を生産している。 特産として現在まで続いているのは「紅ずいき」であるが、生産農家は減少傾向にある。 ・栽培、承継等について 「紅ずいき」は特産として栽培されてきたが継承が難しく減少傾向にある。地域としては守っていきたいが、現状として担い手が不足している。 新たに特産となる作物を栽培していくには面積が少ない。 栽培する作物（軟弱野菜・「なす」など）によっては専業農家で生計が立てられるという声もある。 ・その他課題について 地域にはベテランの農業者が多いことから、新規就農者受け入れのため手厚いサポート体制を立てることができる。 圃場整備も検討すればよいが、まずは水の便利が特に良い地区に農地の交換も含む集積・集約を進めてはどうかとの意見がある。 圃場整備にしろ、新規就農者の受け入れにしろ、その後の営農継続を維持してもらえるような体制・制度を作っていくことが重要である。 農業機械を地域で保有・管理し、地域の者でレンタルできるようにする。

2 農業上の利用が行われる農用地等の区域

(1) 地域の概要

区域内の農用地等面積	22.1 ha
うち農業上の利用が行われる農用地等の区域の農用地等面積	22.1 ha
(うち保全・管理等が行われる区域の農用地等面積) 【任意記載事項】	ha

(2) 農業上の利用が行われる農用地等の区域の考え方（範囲は、別添地図のとおり）

農用地等は農業上の利用が行われるものとする。

注：区域内の農用地等面積は、農業委員会の農地台帳等の面積に基づき記載してください。

3 農業の将来の在り方に向けた農用地の効率的かつ総合的な利用を図るために必要な事項

(1) 農用地の集積・集約化の方針									
水の便利が良いところで営農できるよう集積・集約していく。									
(2) 農地中間管理機構の活用方針									
段階的に集約化を検討する。									
(3) 基盤整備事業への取組方針									
基盤整備事業の前に集積・集約を進める方針。									
(4) 多様な経営体の確保・育成の取組方針									
ベテランの農業者が多いことから、新規就農者受け入れのため手厚いサポート体制を立てる。									
(5) 農業協同組合等の農業支援サービス事業者等への農作業委託の活用方針									
活用できるサービスがあれば活用する。									
以下任意記載事項（地域の実情に応じて、必要な事項を選択し、取組方針を記載してください）									
☐	①鳥獣被害防止対策	☐	②有機・減農薬・減肥料	☐	③スマート農業	☐	④畑地化・輸出等	☐	⑤果樹等
☐	⑥燃料・資源作物等	☐	⑦保全・管理等	☐	⑧農業用施設	☐	⑨耕畜連携等	☐	⑩その他
【選択した上記の取組方針】									